

(法第28条第1項関係)

令和5年度事業報告書

令和5年4月1日から令和6年3月31日まで

特定非営利活動法人 亀岡人と自然のネットワーク

1 事業の成果

今年度も琵琶湖淀川水系で唯一となったアユモドキ个体群の生息環境の保全、調査を中心に活動を行ってきた。

本年も6月2日にラバー堰が起立されたが、前日からの大雨を考慮して高さは0.5mまでに抑えられた。しかし、大雨による増水で下流が濁水することもなくアユモドキ救出活動は中止された。3日未明にかけての大雨で水位2mに達して堰は自動倒伏し、3日早朝には水位1.1mまで低下、アユモドキの繁殖保護のため早期起立の装置が講じられ夕方には1.7mに回復した。

3日午前、実験地の地表に露出したアユモドキと思われる卵を確認し、水巻きなどを実施したが繁殖への影響が懸念された。用水受入れ口に設置されたナマストラップには、オオクチバスの稚魚50尾が捕獲され、これも大きな懸念材料となった。6月の仔稚魚調査では、曾我谷川の調査地点で計5尾、実験地で計24尾が確認された。

秋の推定個体数調査の結果は、当歳魚1,029尾、1歳以上魚668尾であった。当歳魚は、昨年の896尾を上回ったが前年生まれの成長の遅い個体が含まれていると考えられる。また、1歳以上魚は昨年の663尾から大きく増加したが、これも前年生まれの成長の早い個体が多く加入したと思われ、繁殖に参加できる親魚はこれより少ないと思われる。

今年度も、アユモドキの減少原因調査、増殖方策検討のため、桂川合流部と曾我谷川上流部で移動状況調査、生息地改善対策等を行った。さらに、前年度に継続して京都先端科学大学と協働して、曾我谷川河岸に新たな繁殖適地を造成する実験を実施したところ、一部でアユモドキ仔魚が確認された。

また、曾我谷川JR鉄橋下流の災害普及工事に際して、アユモドキの保護活動を実施したところ計263尾のアユモドキを捕獲して主生息場に放流した。

特定外来魚の駆除活動においては、昨年に古池で初めて水抜きによる駆除調査を実施し、オオクチバス3尾と1万尾を超えるブルーギルを駆除することができた。今年度は、その下流にある安町大池で駆除調査活動を行った。サイホンによる水抜きを試みたが、水面と排水路の高低差が乏しく水抜きが困難で刺し網等による捕獲を行ったが、特定外来種は確認されなかった。

亀岡市等と連携しSAVE JAPANプロジェクトの支援を得て、アユモドキなど自然環境保全に関する普及啓発活動を行った。令和元年に竣工したサンガスタジアムのアユモドキ飼育・啓発支援活動を継続している。

亀岡市内には希少種ヤマトサンショウウオが生息しており、夏原グラントの支援を得て周辺の動植物調査、市民参加の啓発活動に取り組んだ。

アユモドキ生息域とその周辺では、公園整備や圃場整備、道路、河川改修事業が計画及び実施されている。今後も人と自然の共生を進めるため、アユモドキなど希少種の生息環境保全に取り組んでいきたい。

2 事業の実施に関する事項

(1) 特定非営利活動に係る事業

事業名 (定款に記載 した事業)	具体的な事業内容	当該事業の 実施日時	実施 場所	従事者 の人数	受益対象者 の範囲及び 人数	事業費の金額 (概算) (単位：千円)
(1)野生生物、 生態環境等に 関する調査	〇丹波地域アユモドキ 保全回復事業	令和5年5月1日 ～ 令和6年3月25日	曾我谷 川周辺	220人	京都府民 260万人	2,399
	長尾山生物多様性事業	令和5年4月1日～ 令和6年3月30日	亀岡市 内	30人	亀岡市民 9万人	420
(1)野生生物、 生態環境等に 関する調査	ため池排水事業	令和5年11月1日 ～ 令和6年2月24日	亀岡市 内	50人	京都府民 260万人	935
	その他生態系保全事業	令和5年10月1日 ～ 令和5年12月25日	亀岡市 内	30人	亀岡市民 9万人	732
(2)野生生 物、生態環境 等に理解を深 める啓発活動	普及啓発活動	令和5年4月1日 ～ 令和6年3月31日	亀岡市 内	40人	亀岡市民 9万人	465